

目 次

目次	I
0. 平成 23 年度「西欧中世文書の史料論的研究」活動について	1
1. 研究会「ジャン＝ピエール・ドリュモール教授」講演会、研究会	3
ジャン＝ピエール・ドリュモール 「イタリア王国における裁判（9 世紀末から 11 世紀末）」	5
ジャン＝ピエール・ドリュモール 「秩序は失われたか ―政治権力細分化の諸段階 （古代から中世にかけての日本、西欧、ビザンツ）」	18
高橋一樹「日本中世史の視覚から」	33
城戸照子「イタリア中世の裁判をめぐって」	35
2. 研究会「史料論研究の射程」	45
小澤 実「紀元千年期スカンディナヴィア史料論に向けて ―デンマーク・イエリング王朝の事例―」	46
足立 孝「12・13 世紀ウエスカ司教座聖堂教会文書の生成論 ―俗人文書と家門の「創造」―」	62
新井由紀夫「15 世紀イングランドにおけるジェントリの家政会計記録 （ハウスホールド・アカウント）について ―ラングレイ家の家政会計記録（1473 年）―」	69
岡崎 敦「現代アーカイブズ理論と中世史料論研究」	82
山田雅彦「中世後期都市史研究の現状と都市文書研究の今後 ―北フランスを中心に―」	89
徳橋 曜「ラテン語で書くか俗語で書くか ―14～15 世紀のフィレンツェ共和国の文書作成―」	98
丹下 榮「史料論のこれまで、これから」	102

II

3. 史料論についての個別論考	107
津田拓郎「カピトゥラリアに関する近年の動向」	108
花田洋一郎「中世後期フランスにおける都市議事録研究の現状と課題 ―最近の研究から―」	133
大宅明美「ポワチエ都市文書庫と史料伝来」	146
岡崎 敦「アーカイブズ学の現在」	154
清原和之「電子環境下のアーカイブズとレコードキーピングに関する批判的考察 ―マイケル・モスの議論を中心に―」	164

執筆者紹介